

1. 単元名 第2章4「会計によるマネジメント」

2. 単元の目標

- (1) 会計によるマネジメントについて理解し、関連する知識技術を身に付ける。
- (2) 会計によるマネジメントについて課題を発見し、合理的に解決する。
- (3) 会計によるマネジメントについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。

3. 単元について

(1) 教材観

第2章「農業のマネジメント」の一部で資源・資金、人材、経営環境などのマネジメントの視点に着目して、その基本となる考え方から、経営戦略の策定、事業の組み立て方と運営方法、農業経営の集団化・法人化、経営者としての能力や人材の活用、情報の収集と管理、農業簿記と財務分析、さまざまなリスクにうまく対処できる経営技術、などといった専門的な事項を理解することに主眼をおいている。特に簿記の目的である「財務管理」が農業のマネジメントの中核をなすことを理解させたい。

(2) 生徒観

3年農業科（男子15名女子2名）は栽培分野を学ぶ学科で将来、農業経営を担う（家が農家）人材が約20%である。さらに農業関連の進学を含めると40%を越し、農業に対する興味関心が高く、栽培に関する経験を積んでいる。しかし経営分野に関する簿記の分野の基本である計算などに苦手意識を持つことが課題でもある。

(3) 指導観

実習資金特別会計（特会）は生徒たちの実習で生産された農産物や加工品を販売し、得た収入をもって購入資金（農業資材や種子等）に充てる制度である。その年ごとに予算や達成すべき目標金額があり、それをどう乗り越えるか、この「会計によるマネジメント」の中で扱うことで自らの課題として捉えさせたい。

(4) ESD との関連

- ・本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）
  - 相互性：農業生産活動（実習）だけでなく社会情勢（インフレ）や財務分析、様々な角度と関係性から、経営面の課題意識を高める。
- ・本学習で育てたい ESD の資質・能力
  - 未来像を予測して計画を立てる力…栽培や販売計画を変更する必要があるか、実際の経営ではどうかを考える能力を育成する。
  - 多面的・総合的に考える力…社会情勢（インフレや物価高）や大雨・夏の高温が農作物に与える影響を考える。
- ・本学習で変容を促す ESD の価値観
  - 経営をとらえて幸福感満足感に敏感になる。
- ・達成が期待される SDG s
  - 目標8：経済成長と雇用      12：生産と消費      13：気候変動

#### 4. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
会計によるマネジメントについて理解し、関連する知識技術を身に付けている。	会計によるマネジメントについて課題を発見し、合理的に解決している。	会計によるマネジメントについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。

#### 5. 指導と評価の計画 (太枠は本時)

小単元等	授業時間数		観点			評価規準
			知	思	主	
1 会計と簿記	1	計15時間	○			会計と簿記について理解し、関連する知識技術を身に付けている。また課題を発見し、合理的に解決している。
2 資産・負債・純資産と貸借対照表	3		○	○		貸借対照表について理解し、関連する知識技術を身に付けている。また課題を発見し、合理的に解決している。
3 収益・費用と損益計算書	3		○	○		損益計算書について理解し、関連する知識技術を身に付けている。また課題を発見し、合理的に解決している。
4 取引と勘定	2		○			取引と勘定について理解し、関連する知識技術を身に付けている。
5 仕訳と転記	2		○			仕訳と転記について理解し、関連する知識技術を身に付けている。
6 試算表	1		○			試算表について理解し、関連する知識技術を身に付けている。
単元のまとめ (小テスト含)	3		◎	◎	◎	上記3単元の評価規準を参照

◎については成績算出の根拠資料として用いる評価を含む。

## 6. 本時の学習目標

時間	目標	重点 (観点)	学習活動	評価規準 (B 規準)	評価 方法
3	損益計算書から考えたことを表現する。	思	令和6年度の各専攻の特別会計から損益計算書を作成し課題等を発見する。	損益計算書から考えたことを1つ表現している。	ワークシート or フォーム

### 6 本時の展開

過程	学習内容・活動	指導上の留意点	学習評価 (●評価場面・評価方法)
導入 5分	出席確認 前時の復習  本時の目標を知る	令和5年度の損益計算書についての振り返り	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <b>目標 (思) 損益計算書から考えたことを表現する。</b> </div>			
展開 35分	資料の配付 (クラスルーム)  令和6年度の各専攻の損益計算書を作成する。	資料について丁寧に説明する。  事前に令和5年度の損益計算書を学習し、令和6年度について臨む。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <b>(問) 損益計算書から気づいたことや考えたことを整理しよう。</b> </div>			
	気づいたこと、考えたことをワークシ	着眼点：売上高、純利益、令和5年度と比較する。	●フォームを使ってワークシ 送信す
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <b>(問) 純利益を専攻生の人数で割ってみよう。これが意味するものは？</b> </div>			
	純利益を専攻生の人数で割る。 <u>この数字が何を意味するかを考える。</u> ワークシートに記入する。	時間を確保し、個人で考え、次に専攻で考える。	●フォームを使ってワークシートに記入したことを送信する。(思)
まとめ 10分	本時のふり返り 純利益を専攻生の人数で割った金額がいわゆる「給料」にあたることを知る。	目標の再確認と自己評価。 自分で課題を見出す力が必要だと気づくよう指導する。	

A 基準	損益計算書から考えたことを1つ表現し、新たな課題に気づき、表現できた。
B 基準	損益計算書から考えたことを1つ表現できた。
C 基準	サポートを受けて損益計算書から考えたことを1つ表現できた。

